

13. 鼻アレルギー、慢性副鼻腔炎に対するブロンカスマ・ベルナによる エアロゾル療法の検討

前田 仁(神戸労災病院耳鼻咽喉科)
森本大和(神鋼病院耳鼻咽喉科)
藤谷哲造(神戸大学医学部耳鼻咽喉科)

鼻アレルギーや慢性副鼻腔炎に対して経皮的な減感作療法や免疫療法が行われており比較的良好な結果が得られている。最近、特異的、非特異的減感作ともに経口あるいは経鼻的投与が行われつつある。われわれは細菌多価抗原製剤ブロンカスマ・ベルナをエアロゾル化し、鼻・副鼻腔へ直接投与しその結果について検討した。

対象は皮内反応、鼻誘発反応、鼻汁中好酸球検査のうち2つ以上陽性を示した鼻アレルギー患者21例と慢性副鼻腔炎患者19例である。ブロンカスマ・ベルナ原液1mlを生理食塩水に溶解し6mlとし、1回3mlを流量毎分2mlで週2回噴霧した。投与期間は8週間とし、試験期間中はステロイド剤、DSCG、 γ -グロブリン製剤など試験結果に影響をおよぼすと思われる薬剤は原則として投与しなかった。

自覚症状は日記より治療開始前の1週間の平均でその程度を決めた。治療開始4週後および8週後に他覚所見を観察するとともに、自覚症状についても改善度の判定を行った。また8週治療後患者自身の印象を問診し、自他覚所見を合わせて総合判断し全般改善度とした。検定はWilcoxonの検定で行った。

鼻アレルギーの自覚症状改善度はくしゃみ発作回数は4週後76.2%、8週後68.4%が1段階以上の改善を示し、水性鼻漏は4週後90.5%、8週後83.3%が1段階以上減少し、鼻閉も4週後76.5%、8週後85.7%が改善、嗅覚障害のあった7例は4週後87.5%、8週後100%に嗅覚の改善が認められ、いずれも対照期間に比較して有意($P<0.01$)に改善した。他覚所見では下甲介粘膜腫脹は4週後66.7%、8週後68.4%に改善が認められ、鼻汁量は4週後52.4%、8週後57.9%に1段階以上の減少がみられ、いずれも対照期間に比較して有意

($P<0.01$)の改善が認められた。粘膜色調の変化はあまり顕著ではないが改善傾向が認められ、鼻汁中好酸球も半数以上が減少する傾向を示した。自覚症状および他覚所見を概括すると各々中等度改善以上は52.6%、26.3%、軽度改善以上は84.2%、68.4%であった。患者の印象では良くなった以上57.9%、少し良くなった以上78.9%であった。全般改善度は中等度以上の改善率が36.8%で、軽度以上の改善率は78.9%と高かった。副作用は全く認められなかった。

慢性副鼻腔炎の自覚症状改善度は鼻漏の減少については4週後78.9%、8週後81.3%であり、後鼻漏の減少は4週後77.8%、8週後87.5%でともに対照期間に比較して有意($P<0.01$)に減少した。鼻閉は4週後55.6%に有意($P<0.05$)の改善がみられ、8週後は73.3%と改善率が上昇した。頭重はすべての症例にみられ、4週後31.6%、8週後62.5%と対照期間に比較して有意($P<0.05$)の改善であった。嗅覚障害のあった8例は有意差はなかったが4週後36.4%、8週後55.6%が改善した。他覚所見では鼻汁量と性状の変化が最も大きく、鼻汁量は4週後で68.4%、8週後で81.3%に有意($P<0.001$)に減少を示した。性状も治療前はすべての症例で膿性あるいは粘膿性を示したが3例に鼻汁が認められなくなり、あっても粘性あるいは漿液性となり、改善率も有意($P<0.01$)であった。X線所見では篩骨洞、特に上顎洞で改善を示したものが多かった。自覚症状と他覚所見の概括では各々中等度以上改善が43.8%、37.5%で、軽度以上改善が87.5%、75%に認められた。X線所見概括では33.3%に中等度以上の改善と、66.7%に軽度以上改善を認めた。患者の印象でも良くなった以上37.5%、少し良くなった以上93.8%であった。全般改善度は著明改善が37.5%で、軽度以上の改善率は87.5%と高かった。1例は頭痛を訴えたが他の薬剤でも同様であり、本薬剤の副作用とは考えられなかった。鼻アレルギー群を含めて臨床検査にも異常はなかった。

今回、鼻アレルギーおよび慢性副鼻腔炎に対しブロンカスマ・ベルナエアロゾル療法を行い、皮内法とほぼ同等あるいはそれ以上の効果を認めた。